

平成 30 年 6 月 12 日

## サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 香川県立高松桜井高等学校 八田 由美
2. 講師氏名: Dr. Peter Vermeiren
3. 同行者氏名: 池島 耕先生
4. 実施日時: 平成 30 年 6 月 11 日 (月) 15:45 ~ 17:15
5. 参加生徒: 1 年生 8 人、 2 年生 6 人、 3 年生 7 人 (合計 21 人)  
備考: 普通科の生徒で受講希望者
6. 講義題目: The effects of microplastics on estuarine communities
7. 講義概要: 講師の自己紹介  
ベルギーの歴史・文化・産業・著名人などの紹介  
研究について  
研究の動機: もともと生物学を専攻していた。ベルギーと異なる環境にどのような生物がいるのかなどを調べていくうちに疑問がどんどんわいて、興味関心が広まった。  
日本での研究内容の説明: 河口域にマイクロプラスチックがどれだけあるのか。生物への影響調査。調査方法の確立など。  
【実験】実際に高知県の河口で採取した砂から高濃度の食塩水を用いてマイクロプラスチックを分離し、数えてみる。  
高校生に向けてのメッセージ  
何かに興味を持って調べ始めたらいろいろ知りたいことが増えていくということ
8. 使用言語: 英語
9. 講義形式:
  - (1) 講義時間 60 分 質疑応答時間 30 分
  - (2) 講義方法  
プロジェクター使用による講義、生徒が参加しての実験
  - (3) 通訳  
同行者によるサポート

(4) 事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)

講師より事前に送っていただいた用語集を高校の担当者が訳、解説を加え、事前に生徒に配布した。TED-ed の番組で関連する内容のものを視聴した。

10. その他特筆すべき事項:

講義は写真や図などを使って丁寧に説明していただき、実際のリサーチの方法を体験できる身に実験もさせていただき、生徒は楽しそうに取り組んでいた。マイクロプラスチックによる汚染について話をさせていただいたが、内容についての生徒の関心も高く、質問時間には研究内容についての質問が相次いだ。

講義が終わった後も質問時間に話さきれなかった生徒が講師の方を取り囲んでベルギーのこと、研究のことなど知っている英語を駆使してコミュニケーションをとろうとしており、普段は見られない生徒の姿を目にすることができた。答えにくい難解な質問にも丁寧に答えていただいた。専門の内容の難しいところは、同行してくださった池島教授が日本語で解説を加えてくださり、それも生徒の理解の助けとなっていたようだった。